

## 平成 30 年度事業報告

### 1、法人総括

社会福祉法人制度改革以降、地域における公益的な取り組みや事業運営の透明性の向上についての取り組みを強化してきた。地域の福祉拠点として地域のニーズである単身高齢者を対象とした見守り事業「まどかサロン」「あけとみサロン」は高齢者が集う介護予防の憩いの場として定着している。

また法人の組織強化を目標に次の時代を担う管理者育成のための勉強会を定期的に行い、次世代の人材育成に取り組んだ。

平成 29 年度の新規事業として 30 年 2 月 15 日にまどかⅡ番館特養を開設し、引き続き 3 月 9 日にグループホームを開設した。

平成 30 年度には新規事業として 4 月 16 日にまどかⅡ番館デイサービスが開所となった。介護職員の雇用が厳しい中、法定に定められた職員は集めたものの福祉や介護を経験したことのない職員も多く、そのため職員の適性或キャリアに沿った教育体制が急務となった。派遣職員については派遣期間の定めもあり、引き続き職員確保のため、ハローワークはもちろんのこと人材派遣会社や専門学校、大学に働きかけ、就職フェアに積極的に参加した。

また、経営の安定化については、新規事業であるまどかⅡ番館の稼働率を高め収入を増やすことを目標としていたが、特養は 5 月に満床となったもののグループホームについては時間がかかり 11 月に満床となった。高齢者が入居できる施設が増えたことで特養の待機期間が短くなり、グループホームより安価な特養への入所希望者が増えたためと考えられる。デイサービスは利用者獲得のため近隣の居宅事業所などに働きかけを行ったものの、利用者の獲得が厳しく経営上の大きな課題となった。3 月から短時間のデイサービスを開始し、少しずつではあるが利用者が増えつつあるが魅力あるデイサービスとなるためには更なる工夫が必要である。

事業運営の適正化、法令遵守については、そせい苑ケアプランセンターで不適切な請求が見つかり再度ケアプランの点検を行った。また、しがそせい苑では虐待を疑われる事例が認められた。どちらの案件についても法人の真摯で迅速な対応で行政や家族の理解を得ることができた。この事例を振り返り、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法を繰り返し学び、ヒューマンエラーや不正な行為が起らない事業運営を構築していく。

サービス提供の充実と高品質なサービスの提供については、すべての介護保険施設で家族へのアンケートを実施した。その声を施設運営に役立てサービスの向上に努める。

利用者の健康や安全面ではインフルエンザや感染性胃腸炎の発症はなかったが、しがそせい苑の浴槽水質検査でレジオネラ菌が認められ浴室の消毒を行った。今後は感染症対

策と共に利用者が安心安全に暮らせるようリスク管理の強化を目指す。

## 2、評議員会及び役員の構成

評議員	理事	監事
7名	6名	2名

## 3、法人評議員会、理事会

評議員会	定時 評議員会	平成30年6月17日	平成29年度事業報告、平成29年度 決算報告、給与規定変更等
------	------------	------------	-----------------------------------

理事会	第1回	平成30年5月27日	平成29年度事業報告、平成29年度 決算報告、給与規定変更等
	第2回	平成30年10月28日	就業規則の変更、平成30年度前期 (4月～8月)事業報告及び会計報 告等
	第3回	平成31年3月24日	規程変更、施設設備総合管理(メン テナンス)委託業務見直し、しがそ せい苑デイサービス総合事業撤退、 平成30年度補正予算、平成31年度 事業計画・平成31年度予算、施設 長選任及び本部体制等

#### 4、職員数 225人

	そせい苑・まどか・まどかⅡ		しがそせい苑	
	人数		人数	
施設長	1		1	
事務職	8		3	
管理栄養士	2		2	
相談員	6		4	
ケアマネ	12		3	
保健師	2		1	
看護職	14	派遣4名を含む	9	派遣2名を含む
機能訓練	3		2	
介護職	72	派遣28名を含む	60	派遣14名を含む
その他	6		14	
合計	126		99	

#### 5、サービス事業所活動報告

(特別養護老人ホームそせい苑、ショートステイそせい苑)

##### ① 重点目標・最終評価

経験の長い職員の退職が相次いだ。若手職員を中心にキャリアパスに準じて外部研修に参加し、自己研鑽・現場の介護力維持・向上に努めることが出来た。特に外部研修において「誤嚥性肺炎の予防、食事介助の注意点」を受講した職員を中心に、全利用者の食事形態の見直しを行い、個々に応じた食事を提供することができた。他の外部研修に関しては部署内への伝達などの機会を設けることが出来ていなかった。今後は他の職員へ周知できるようフロア会議等で伝達していく。

また、利用者が安心して充実した生活を送れるよう3ヶ月に1度サービス担当者会議を開催し、利用者・家族の生活全般に関する課題やニーズについて話し合いを行った。ただ、できない事ばかりに焦点が当たり利用者の強み等を生かしたケアプラン作成ができなかったケースも見られた。記録についても排泄、食事の記録が中心となり、利用者の生活の様子がわかる記録が出来ていなかったため今後は改善を要する。

余暇活動については、利用者と職員が「楽しい」と思える場の提供を充実することができた。昼食の時間に利用者と職員と一緒に料理を作ることで、「作る」、「食べる」の両方を楽しむ「わくわくデー」を毎月行うことができた。また、今年度の新たな取り組みとして平成31年2月より毎週木曜日にデイフロアを使用し、わくわくデー、モーニ

ングデー、喫茶等の行事を催した。利用者に大変好評であったので次年度も継続して行なうと共に、広報誌、ブログ等で発信していきたい。

②平成 30 年度 入所者：16 名 退所者：16 名 （看取り対象者：9 名）

③苦情件数：10 件

④事故件数：29 件

（そせい苑老人デイサービスセンター）

① 重点目標・最終評価

担当者会議や居宅訪問で知り得た情報を、誰が見ても分かりやすい様に記録するよう努めた。また、個別性に応じたケアについては、定例のデイ会議等で話し合いを行い、利用者個人の目標等を共有するように努めた。

毎月職員一人1つ以上レクリエーションを考え、進行表を作成するようにすることでプログラムの充実を図ることができた。また、毎日3種類以上のレクリエーションを準備し、利用者が選択することで、満足度を高められるよう努めた。全体の歩行練習や『ボール体操』に関しては、継続・実施している中で利用者の活動性の向上に繋がっている。「歩き隊」は次のステージの設定、付加価値等について進展が見られていないので改善を要する。稼働率については機能訓練実施を表面に出し訪問活動を行ったが新規利用者の獲得に結び付かなかった。

生活支援については、個別性に応じたケアを行う様に情報交換などを行った。利用者の生活環境に見合った個別機能訓練を実施するための居宅訪問やサービス担当者会議で把握した生活や状況、ニーズを具体的にプランに落とし込み「自宅での」自立した生活を想定した支援を行った。

平成 30 年度（4/1～3/31）要介護度別利用者実数						
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
23 人	40 人	167 人	305 人	150 人	28 人	9 人

②月平均登録利用者数：61 名

③月平均リハビリ利用者数：34 名

④苦情件数：8 件

⑤事故件数：3 件

（そせい苑ケアプランセンター）

① 重点目標・最終評価

利用者一人ひとりが住み慣れたまちで自立した尊厳ある暮らしを送れるよう質の

高いサービスの提供に努めたが、平成 30 年 4 月に不適切なケアマネジメントが判明した。他部署職員の協力も得て、約 500 万円の過誤申請（返還）を行った。その後は、法令遵守に対するチェック表を作成し、個人ではなく、チーム全体で定期的に管理し合える仕組みを構築。また、「しがせい苑ケアプランセンター」とも、お互いの実地指導での指摘事項を共有するなど、法人全体で法令遵守の意識向上やサービスの質の向上・平準化を図ることができた。

スキルアップに関しては、法人内他部署や地域内の各種会議や勉強会にも積極的に参加。個別性の高い、統一したケアができるよう法人内での情報交換や勉強会での個々・チーム力の向上を図ることができた。運営に関しては、加算算定要件である主任介護支援専門員が不在となってしまったため、2019 年度中には事業所内で主任介護支援専門員の資格取得を進め、改めて算定再開できるよう努めていきたい。

## ②月平均稼働率

(上半期)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護利用者数 a	118	120	118	121	117	118
要支援利用者数 b	14	14	14	12	12	12
要介護換算利用者数 c (a+b×0.5)	125	127	125	127	123	124
担当職員数 d	4	5	6	5	5	5
稼働率 e (c/d/35 %)	79.4	80.6	79.4	80.6	78.1	78.7

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護利用者数 a	125	127	125	127	130	128
要支援利用者数 b	14	13	12	12	13	18
要介護換算利用者数 c (a+b×0.5)	132	133.5	131	133	136.5	137
担当職員数(d)	5	5	5	5	5	5
稼働率 e ((c/d)/35 %)	83.8	84.8	83.2	84.4	86.7	87.0

注) 稼働率は担当職員一人あたりの利用者数を 35 とした場合の数値。

平成 30 年 5 月 1 日付にて 1 名入職(部署異動)平成 30 年 6 月 1 日付にて 1 名入職(部署異動)

平成 30 年 6 月 30 日付にて 1 名退職、平成 31 年 2 月 28 日付にて 1 名退職

平成 31 年 3 月 1 日付にて 1 名入職(部署異動)。

担当職員数は年間通じて大きな増減はなかったように見えるが、延べ 3 名の入職、2 名の退職があり、担当者引き継ぎの都合上、大きく稼働率を上げることができなかった。

③苦情件数 4 件

④事故件数 1 件

(下鳥羽地域包括支援センター)

① 重点目標・最終評価

平成 29 年度から地域ケア会議を開催することが、地域課題のあぶり出しと、地域住民や介護保険事業所、関係諸機関との連携を強化することにつながると考え、各学区の地域ケア会議と日常生活圏域の地域ケア会議の内容を連動させ、年間を通じて「防災」を切り口として話し合い、29 年度から 2 年間の内容をまとめ総括とした。その結果、全学区を通しての共通課題として、行政の縦割りの仕組みでは高齢者等の要援護者を守る事は困難であり、そのためにも地域の横のつながりが欠かせないことが再確認できた。また、地域に繋がっていない住民の存在も共通課題として挙げられた。同時に、関係者との顔の見える関係が徐々に出来つつある。2019 年度はこれらの課題に対して、包括と地域が協力して出来ることを、各学区の特徴を生かしながら検討していく。

地域サロン(月 4 回)や健康すこやか学級(月 3 回)などの居場所の充実と拡大により、高齢者の生きがい作りと見守りの強化、また、介護予防の普及啓発、特殊詐欺等に対する注意喚起なども行った。特にまどかサロンにおいては、28 年度は平均して 5 名前後の参加者であったが、まどか施設職員、管理栄養士、そせい苑やまどか、まどかⅡ番館の機能訓練士、理学療法士の協力の元、少しずつ人数が増え、30 年度は平均 20 名前後まで参加者が増え、参加者同士が旧交を温めたり、新たな友人が出来るなどの姿が見られている。

全戸訪問活動においては、65 歳から 74 歳までの独居世帯 1258 名に郵送し、返信封筒を利用したところ約 30%の返信があった。郵送時に包括支援センターの情報誌も同封することで、包括に対する周知ができた。また返信のあった高齢者からは居場所や介護予防のニーズが高いことが発見でき、次年度の地域ケア会議の内容にも反映したい。また 75 歳以上の独居世帯については、3 学区の独居世帯、約 3500 名を警察・消防との合同訪問も踏まえ、実施を計画した。しかし当初の計画が不十分であった為、南浜学区(約 1200 名)を残すこととなった。

地域住民に、健康や介護予防に対する要望が高いことから、29 年度「公園体操公開講座」を開催し、50 名超の参加があった。30 年度は公園体操ボランティア養成講座を開催し、介護予防・居場所づくり・高齢者の活躍の場の開発につなげた。その結果一組のボランティアが生まれ、地域での介護予防体操や、高齢者が集まれる居場所を確立できた。今年度は、ボランティアの後方支援をしながら、引き続き、地域が主体となった介護予防や居場所を拡大していきたい。

また、南浜小学校の体育館を借り、健康チェックと認知症予防の講演など多彩な企画を盛り込んだイベント「元気！みなフェス」第 2 回を開催し、実質 100 名の参加があった。これにより、地域役員、社協、サービス事業所の横の繋がりができ、継続的

に地域を支えるネットワーク「みなネット」を立ち上げることができた。

圏域内のケアマネジャーが抱える支援困難ケースの相談に対応し、地域ケア個別会議を開催して、地域役員や行政とも協力して支援を行った。また事例検討会を開催し、ケアマネジャーの交流、資質向上の取り組みを行った。ケアマネジャーには、個別支援だけでなく地域支援など大きな役割が期待されており、今年度は引き続きケアマネジャーのニーズに応え、信頼される取り組みがさらに必要である。

## ② 給付管理件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
給付管理件数	378	380	380	379	388	396	405	412	410	397	399	397
委託件数	135	130	119	126	124	125	117	113	111	109	116	113
内法人内	13	14	14	12	12	13	12	13	13	11	11	16

給付管理数は徐々にではあるが確実に増加傾向にある。外部委託件数が多く赤字の原因となっているため、新たな外部委託は原則として行っておらず、減少しつつある。

② 苦情件数 0件      ④事故件数 1件

(介護老人福祉施設まどか)

### ① 重点目標・最終評価

利用者や家族の意向を踏まえたケアプランを作成したものの、介護記録については排泄、食事などの記録が中心となり、ケアマネジャーが作成したケアプランに沿った記録が不十分であった。今後は職員全員がケアプランの周知を行い、利用者や家族の意向に沿った援助と記録を行えるようにしていく。また、業務改善については、PDC Aサイクルの勉強会が開催出来なかった為、適切な計画、評価ができずに効率的な業務改善ができなかった。

高品質のケアを実現するため、キャリアパスに準じた外部研修への参加や内部の研修参加、委員会、クラブの担当を通して、職員一人一人のスキルアップを凶る事を目標にしていた。外部研修、苑内研修では一人でも多く研修に参加できるように勤務を調整し、多くの職員が受講出来るように配慮ができた。職員一人一人が委員会やクラブに所属し、それぞれの役割を果たす事でスキルアップに繋がった。

地域交流では地域ケア会議に参加し、地域の防災についての意見交換を行い、地域の特性や地域の課題を理解する事が出来た。2ヶ月に1回、運営推進会議をまどかで開催し、まどかでの取り組みを地域に発信することもできた。また、毎月第4木曜日に「まどかサロン」を開催し、地域住民の独居高齢者が約20人集まり、機能訓練やボランティアによる演芸や鑑賞、軽食などを実施した。サロンに参加された地域住民の方々に楽しんで頂き、地域密着型施設の役割である地域住民との顔なじみの関係を構築出来た。下鳥羽小学校での区民運動会、田中神社の神輿観覧、下鳥羽青年会による獅子舞や下中会による節分の鬼の

訪問など、地域の方々の協力体制も定着してきた。今後も地域の福祉拠点としての役割を担っていく。

②平成 30 年度 入所者：11 名 退所者：11 名 （看取り対象者：4 名）

③苦情件数 4 件

④事故件数 46 件

（短期入所生活介護まどか）

① 重点目標・最終評価

在宅での生活リズムに沿ったケアを提供する為に利用者一人ひとりの過ごしたい生活をユニット会議で話し合い、共有する事が出来たが利用者の詳細な情報収集をする為にセンター方式シートの D1・D2・D3 シートを活用することを目標にしていたが不十分であった。今後はセンター方式シートを活用出来る様に担当や更新期間を決め取り組んでいく。

ケアの統一性を図るため、介護職・相談員・看護職が密に連携できる様に月 1 回の会議を開催し、ケアの統一の意識を職員が持つことで統一する動きが出来た。他事業所には月に 1 回、モニタリングとして利用者の様子について報告しているが今後は文書で返信出来る様にしていく。

余暇の時間を充実させる為にクラブ活動（書道クラブ・生け花クラブ・おやつクラブ・ネイルクラブ・運動クラブ）やハッピータイムと称して昼食に利用者と一緒に調理をして食べるという日を月に 1 回設定し、1 年間を通して行う事が出来た。課題としてはクラブやハッピータイムの開催方法や場所のバリエーションが少なかった。今後はバリエーションを増やすために各クラブやハッピータイムの開催時間を検討していく。

情報の発信として毎月チラシを作成し、利用者や事業所にはまどか内の行事内容をアピールする事が出来た。数名の家族からも気に入ったクラブに合わせて利用したいという希望もあり、事業所へは月に 1 回の実績を手渡しで配布する事でアピールする事が出来た。訪問活動に関しては活動できていない月があった為、稼働率の低下を止めることが出来なかった。今後は訪問活動計画書を作成しスケジュールに沿って活動を行う。

外部研修で学んだ事は会議内で報告は出来たが報告のみで現場で活用する事が出来なかった。今後は報告のみでなく、活用出来る様に担当者の選任や取り組み期間等を設定する。

平成 30 年度（4/1～3/31）要介護度別利用者実数						
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
2 人	3 人	17 人	38 人	31 人	21 人	7 人

②平成 30 年度 利用者数 120 名

③苦情件数 4 件

③ 事故件数 30 件

(まどかⅡ番館特別養護老人ホーム)

① 重点目標・最終評価

ユニット会議を通じて各アセスメントツールや24時間シートについての勉強会を開催することを目標とし、各ユニットで24時間シートの作成を行い、入居者の生活リズムの把握をできるようにした。しかし、作成は行ったが定期的な見直しや更新はできていなかった。また、ユニット会議を通して、24時間シートの目的や必要性は伝達したが、勉強会の開催には至っていない為、次年度も取り組みを継続する。

次に、サービス担当者会議に関しては各専門職との情報共有ができており、入居者が入所されてからの様子や以前の生活や環境に関する問題点や課題について、家族を含め共有することができた。

家族会を通して、他ユニットの家族との交流、また、家族同士の交流が図れた。下鳥羽小学校の運動会への参加や、獅子舞・神輿の参加等、Ⅱ番館を地域に知ってもらう機会もできた。外部への発信が少なかったので、来年度は広報誌やホームページの更新、ブログを担当制にして円滑に行う。

②平成30年度 入所者：5名 退所者：5名 (看取り対象者：0名)

③苦情件数 6件

④事故件数 24件

(まどかⅡ番館グループホーム)

① 重点目標・最終評価

職員一人ひとりがアセスメントツールやケアプランについての理解度を高めていくことについて、基本的に3ヶ月に1回のペースで、モニタリング、サービス担当者会議の開催、ケアプランの作成のルーティンを必ず実施した。また、グループホーム内に「ケアプランと24時間シート」をセットにしたファイルを準備し、日常的にプランに基づいたケアが実施できるようにした。

しかし、アセスメント不足やケアプランの目標、サービス内容が抽象的であり、個別性の高いケアプランが出来ていたとは言い難い。また、医師や併設特養の専門職(機能訓練士・管理栄養士)との連携不足や助言内容をケアプランに反映させる等が少なく、他職種の意見を組み込んだケアプランの作成を目指す。

次に、研修の参加と伝達研修の機会を設けることを目標としたが、グループホーム職員の外部研修への参加実績はなく、管理者が参加した外部研修の資料を供覧したのみであった。また、第三者評価の受診については年度内に受診することを目標としたが、申し込みに取り掛かるのが遅く、平成31年4月に受診することとなった。

地域資源の活用については、日常的に散歩や買い物(徒歩や車を使用して)、地域の

美容室の活用、馴染みの床屋での散髪等を行い、年間を通じて実行できた。入居者が希望する日用品や嗜好品の購入も職員と一緒に行く等、なるべく行きたい時に行けるように努めた。区民運動会や田中神社祭礼、節分等、地域行事の参加は行ったが「地域とのネットワークを構築」に関しては、次年度の継続課題である。

- ②入退所状況 入所者：9名 退所者：1名
- ③苦情件数 2件
- ④事故件数 16件

(まどかⅡ番館デイサービスセンター)

① 重点目標・最終評価

Ⅱ番館デイサービスでは、利用者が自分自身でデイサービスでのメニューを管理できるように、支援している。余暇活動では利用者個々に応じたクラブ活動や自宅から持参した趣味の活動をする等、デイサービスでの一日を楽しく有意義に過ごしている。

機能訓練では訪問チェックシート、アセスメントの分析を行い、個々にあった訓練を行う事が出来た。

しかし、一日の利用人数が少ない為、ゆったりと時間が流れているが次年度では利用者の増加と共に、ゆったりとした時間を継続していくことが課題となる。

利用者の暮らしの継続を支援することについては、利用者や家族の要望を聞く機会を多く作ることに努めたが、生活の現状把握、ニーズに合った具体的な内容をプランに立案することが出来ていなかった。次年度は、担当者会議や居宅訪問での情報をデイサービス会議内で共有しプランに立案する。

開所当初から、新規利用者の獲得や稼働率の向上に努めてきたが、不十分な結果となった。特に下半期では、「Ⅱ番館たより」を発行し、Ⅱ番館デイサービスの魅力である「大きなお風呂」「大きな鏡」「個々にあった機能訓練の実施」をアピールすることで、お試し利用者、新規利用者が増えつつある。3月より、短時間のデイサービスを実施し利用者の増加につながっている。今後も、新しいアイデアで稼働率向上に努める。

一人一人の職員の知識や技術がまだまだ未熟な為、外部研修や内部研修で技術の向上に努める。伏見区の通所部会や居宅事業所部会等にはすすんで参加し、まどかⅡ番館デイサービスの情報を発信していく。

平成 30 年度 (4/16～3/31) 要介護度別利用者実数						
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
38 人	17 人	221 人	26 人	203 人	21 人	0 人

- ②月平均登録利用者数：9.8名
- ③月平均リハビリ利用者数：8.6名
- ④苦情件数：1件
- ⑤事故件数：2件

(特別養護老人ホームしがそせい苑)

① 平成30年度 重点目標・最終評価

質の高いサービスの提供について口腔ケア委員会を中心に、一人ひとりの口腔状態と口腔ケアの方法をまとめた。また、口から食べることを維持するためのチェックリストを作成し、嘱託医とも連携を行いながら、多職種で食事観察を行い、昨年度に続き、経口維持加算の算定ができた。平成30年度の介護報酬改定において、新設された再入所時栄養連携加算の算定に向け、入院先の病院と施設の管理栄養士が退院時に連携を行えるように、地域連携室を通して連携を図った。看取りにおいては、嘱託医と連携し、多職種でケアを考え、10名の方の看取りケアを行った。

昨年度に続き、認知症基礎研修や認知症実践者研修の受講を積極的に行い、平成30年度末時点で、認知症基礎研修は8名、認知症実践者研修は7名、認知症リーダー研修は3名が受講を修了している。受講者が中心となり、日々の認知症ケアの中で、必要な利用者に生活のアセスメントやひもときシートを活用している。他にも、湖南圏域の認知症に関する多職種検討会や排便ケアに関する研修等を受講した。

24時間シートの作成・活用については、今年度の各ユニットの重点課題・目標として取り組んだが、全ての利用者の24時間シート作成・活用までには至らなかった。ユニットにより、介助の手間の時間帯が異なり、来年度は業務改善の観点からも、24時間シートの作成・活用への取り組みを行っていくことが急務であると考えている。利用者が望む暮らしについて、家族の協力のもと、生活歴や習慣、好きなものなどを聞き取るシートを作成した。

感染については、今年度はインフルエンザが各地の高齢者施設において流行したが、毎日の消毒や利用者・家族・職員の体調管理を徹底し、予防することができた。しがそせい苑の元介護職員が利用者2名の手を強く押さえ、虐待の疑いで守山市の指導があった。守山市より改善計画書を提出するように指導があり、虐待についての研修や、アンガーマネジメント、また職員の増員などの改善に取組み、改善計画に沿って行った。今後も継続事案として取り組みを強化していく。

昨年度に続き、速野小学校の総合学習やひなぎく子ども園との交流を行った。総合学習に来た生徒がしがそせい苑での体験を有線放送で紹介があった。また、以前総合

学習に来た卒業生が専門学校のボランティア実習体験があった。また、年1回の大曲サロンを開催、毎月開催しているいきいきサロンでは地域の方の参加が増えてきている。防災においては、毎日近隣パトロールを行うとともに、月1回、リーダー職員と一般職員がペアになり、大曲消火栓点検に参加。地域の消防団と一緒に町内の巡回点検をしている。

介護技術委員会が中心となり、年間計画に基づき全体研修で介護技術の勉強会を行い職員のスキルアップ向上につながった。

②月平均 稼働率：95.1% 年間平均介護度：3.8 要介護度別 月平均

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
年間	0.2	2.8	31.3	24.2	20.6
月別平均					

③入退所状況（年間） 入所者：33名 退所者：33名 看取り者：5名

④苦情件数（年間）：21件

⑤事故件数（年間）：257件

（ショートステイしがそせい苑）

① 重点目標・最終評価

利用者がケアプランに沿ってリハビリ体操やラジオ体操、クラブ活動に参加できる働きかけや筋力の維持向上に努めることができた。しかし特定の利用者に限られたのも事実であり、新規や重度の認知症の方へのアプローチという面ではまだまだ手薄であり今後の課題である。またショートステイとしてのレクリエーションも脳トレや手芸、貼り絵、カラオケなどいろいろと準備し利用者に自己選択できるように支援した。

担当者会議ではケアプランに沿って援助できていることがあるにも関わらず、記録面では不十分で利用中の現状報告になることが多くケアプラン・モニタリングに基づいた記録ができていないので来年度は改善し家族や担当ケアマネと情報提供や情報共有できるようにしていきたい。

重度の認知症の利用者が多くなる中、ユニット会議で認知症に対する勉強や介護技術向上への取組みという面では手薄であった。その時その場の対応であり継続した援助というものができていなかった。利用者のニーズにあったサービスの提供が出来ていなかった。

来年度に向けては、利用者のニーズにあったサービスの提供為に職員一人一人が担当利用者を持ちモニタリングやアセスメントを行っていく。また家族の介護負担の軽減がショートの役割であることを自覚し、会議等で知識や技術の向上に努めていきたい。

②稼働率

稼働率		要介護度	
29年度	30年度	29年度	30年度
79.73	74	2.58	2.66

月平均要介護度別利用者数						
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0人	0.08人	13.52人	33.18人	32.75人	13.38人	7.07人

(デイサービスセンターしがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

平成30年4月から総合事業のゆったりデイを開始したが、利用者獲得数の伸び悩みにより1年間で事業廃止となった。

しかし、デイサービスでは利用者の自己選択・自己決定に向けて取り組むことが定着した。それにより、利用者一人ひとりが望む生活を実現するため、自立支援に向けたデイでの取り組みを通して利用者本人ができることをアセスメントし通所介護計画に反映することができた。また、在宅生活を続ける為に自分で目標を立てて取り組む利用者が全体の約3分の1の21名に増加し、外出訓練等の生活行為向上訓練を計画に入れ取り組むことができた。そのため、利用者のADLの維持・改善度合いが一定の水準を超えることができ、平成31年度はADL維持等加算を算定できることとなった。レクリエーションについては利用者の意見も取り入れながら前年度よりも充実させ、利用者が飽きないよう工夫した。また、焼肉や鍋、揚げたて天ぷら等の食事レクも企画し集客した。

今年度も、毎月のデイ便りやブログ、居宅介護支援事業所への訪問活動で自立支援の取り組みの様子を紹介し、新規獲得及び稼働率向上を目指したいと思う。また、利用者対象にアンケート調査も行い、利用者の満足度向上に向けても取り組んでいく。

② 稼働率

	29年度	30年度
通所介護	67.4%	69.4%
ゆったりデイ		43.0%

(居宅介護支援事業所 しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続ける事ができるように、行政・医療・介護サービス事業者や地域住民、民生委員など利用者を取り巻く方々の

意見をケアプランに反映するなど、地域で安心して暮らし続けられる為の支援を心掛けた。

認知症の方やその家族に対して地域包括担当者と定期的に訪問し状態の把握に努め必要な支援を行った。

要支援者の自立支援の為、通院時には社会福祉協議会の有償タクシーを利用し、介護保険外の安価で便利なサービス情報をケアプランに位置付けて提供している。また地域の行事やサロンに参加できる事を優先したケアプラン作成に努めているが、社会資源を十分に把握しているとまでは至っていない。身近な資源の発掘にもう少し努力が必要である。

病院の医療連携室や、地域包括に、新規相談の受け入れを行っている事をアピールし、顔の見える関係作りに務めた。

その成果から、医療連携室から紹介を受けたり、大曲町、水保町、今浜町など、地元に住む利用者家族からケアマネージャーの指名を受ける事が多くなり稼働率がUPした。だが、入院や入所、死去される方も多くあるので、稼働率 90%を維持する事が困難である。より以上に登録人数を増やす事が課題となった。

## ② 月平均稼働率

(上半期)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護利用者数 a	44	46	48	47	48	50
要支援利用者数 b	22	21	23	24	25	25
要介護換算利用者数 c (a+b×0.5)	55	56.5	59.5	59	60.5	62.5
担当職員数 (d)	2	2	2	2	2	2
稼働率 e ((c/ d) / 35 %)	78.5%	80.7%	85%	84.3%	86.4%	89.3%

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護利用者数 a	50	52	50	52	46	48
要支援利用者数 b	27	24	25	26	25	23
要介護換算利用者数 c (a+b×0.5)	63.5	64	62.5	65	58.5	59.5
担当職員数 (d)	2	2	2	2	2	2
稼働率 e ((c/ d) / 35 %)	90.7%	91.4%	89.3%	92.9%	83.6%	85%

③ 苦情件数 0件

④ 事故件数 0件

(ケアハウスしがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

入居者平均年齢87.5歳と高齢化し、入居年数が10年を超える入居者が7名おられる。疾病や認知症の進行によりケアハウスでの生活が徐々に難しくなりつつある方が多くなってきている現状がある。退居者4名については、3名が入院中に死亡され、1名は特養に入所となった。

現在入居されている方々は、年間365日毎日休まず行うラジオ体操や下肢筋力維持体操への参加や、施設全体のリハビリ体操に意欲的に参加することでADLを維持できている。特に平成30年度はケアハウスの取組みとして、毎日のラジオ体操や下肢筋力維持体操の参加をポイント制にした。その結果、毎日の参加人数が前年度平均7名から15名に増加した。また年間3回の体力測定を行い、年間の数値推移を化しかすることで入居者個々の意識が高まった。また大人の塗り絵・書道などのクラブ参加者も多く、施設外のコンテスト応募や施設内の展示でやりがいや生きがいを見出している。

これまで施設外の行事に積極的に参加してきたことで、地域住民の一員になりつつあると感じる。特に大曲町の“おまがりぼたる”の飼育については、幼虫の放流から夜のほたる鑑賞まで、地域の皆様と一緒に成長を見守り、楽しむことができるようになった。また、恒例となった速野小学校卒業生への手作りコサージュを今年も150個作成・贈呈した。

新規入居者の確保については、前年度に行った内覧会や訪問活動でケアハウスの特性をPRしたことにより、入居申込みをされる方が多くなり、6月以降は稼働率100%を維持できた。

稼働率	
29年度	30年度
94.8%	99.7%

- ②平成30年度 退居者4名（平成29年度6名）
- ③平成31年3月31日現在 入居者30名（100%）
- ④苦情件数：2件
- ⑤事故件数：5件

## 6、サービス事業所 稼働率表

	稼働率		要介護度	
	29年度	30年度	29年度	30年度
特別養護老人ホームそせい苑	94.8%	96.12%	3.82	3.89
ショートステイそせい苑	88.65%	48.47%	2.84	2.60
特別養護老人ホームそせい苑 +ショートステイ	94.43%	92.74%	3.75	3.84
そせい苑老人デイサービスセンター	72.2%	70.47%	1.90	1.86
そせい苑ケアプランセンター	75.7%	82.0%		
介護老人福祉施設まどか	97.3%	92.01%	4.00	3.91
ショートステイまどか	85.4%	64.80%	3.29	2.69
まどかⅡ番館特別養護老人ホーム	33.8%	88.83%	3.47	3.65
まどかⅡ番館グループホーム	5.92%	72.65%	3.00	2.70
まどかⅡ番館デイサービスセンター		14.59%		1.87
特別養護老人ホームしがそせい苑	95.1%	95.1%	3.80	3.80
短期入所生活介護しがそせい苑	79.73%	74.0%	2.58	2.70
デイサービスセンターしがそせい苑	67.4%	66.1%	2.00	2.15
ケアハウスしがそせい苑	94.7%	99.7%		
居宅介護支援事業所しがそせい苑	75.0%	86.4%		